

AGEPP ネパールからの事例

生活の質向上と持続可能な開発のための環境教育

ネパールの社会的弱者が直面している大きな課題は、きちんとした教育を受けていないため、文字の読み書きができないということにあります。教育の機会の欠如、非識字ということは、少女、女性、貧困層にいる人びとの、環境保護やごみ処理に関する意識が低いということにつながっています。そのため、これらの社会的弱者や貧困層の人びとは、農業や水資源保護、地域の森林管理や、バイオガス、ゴミ処理、リサイクルなど、日々の生業に環境にやさしい技術を取り入れることができません。

ネパール学校外教育リソースセンター(NRC-NFE)は、1995年に設立され、識字とノンフォーマル教育に取り組んでいます。NRC-NFE は、識字教育の推進は、単に学校から落ちこぼれた子どもや、若者、成人に読み書きや計算の仕方を教えるだけのものではないと考えています。教育は、とりわけ社会的弱者の人びとが生活水準と生活の質を向上させることができるように、計画され、実施されなければなりません。NRC-NFE では、これを実現するのは、地域のニーズに根ざして企画・実施・モニタリングも自ら行えるような地域の市民団体でなければならないと考えてきました。

持続可能な開発のための教育の必要性から、NRC-NFE は、日本のユネスコ・アジア文化センター(ACCU)の支援を受け、ACCU-UNESCO アジア太平洋地域 ESD イノベーション創生プログラムを、2006年10月より実施しています。「コミュニティ学習センター(CLC)を通じた女兒・女性・その他弱者の所得創出と生活の質向上による貧困緩和のための環境識字統合プログラム(IELP)」事業を実施した。

環境保全は、人々の日々の生活のなかで取り込まれるべきで、地域住民の所得創出や生活の質向上にも直接つながることが大切だ。このプロジェクトは、人々の収入増につながる環境に優しい新たなテクノロジーの活用と、地域住民の意識向上に合わせて取り組んだ。NRC-NFE の LRC(識字リソースセンター)は、国内各地に CLC を設立し、多様な識字や学校外教育のプログラムを実施してきた。

NRC-NFE は、ネパールにおける CLC 設立の先駆者として、これまで国内各地に 22 の CLC を設立し、同時にユネスコ・カトマンズ事務所やネパール政府による国内の CLC 設立・推進を技術的に支援してきた。CLC は、識字や学校外教育の活動を、様々な開発課題や人々の生活の質向上といった側面と結びつけ実施していくくみとして機能している。ネパール政府は全国の CLC に関する施策や国家プログラムを策定しており、全国にある CLC の数は 600 以上に上る。

このプロジェクトの主なねらいは、女兒や女性、学校に行っていない子ども、若者、その他の弱者に対し、グループ単位で、生活の質向上につながる所得創出活動と合わせたかたちで環境識字統合プログラム(IELP)を実施し、こうした人々が環境の持続可能性を確保しながら貧困を乗り越える力をつけていくことにある。

このプロジェクトの主な活動分野は以下のとおり。

環境保全や、人々や地域の生活の質と環境保全のつながりに関する、意識向上プログラム

CLC リソースセンターを通じた情報発信

所得創出活動

このプロジェクトを通じて、地域の人々に、以下のような成果がもたらされた。

国内の女兒・女性・その他の弱者をはじめとする学校に行っていない子ども・若者・大人のための、識字や学校外教育が推進された

人々が、生活の質向上や、環境に優しい技術を用いた自然資源保全に結びつく、より多くの収入、知識、技能を得るための力を身につけた

学校外教育や地域開発をすすめる地域の機関として CLC の活用を推進した

以下、CLC 活動に関する写真からいくつかを紹介する。

NRC-NFE の建物

NRC-NFE の識字リソースセンター

識字ファシリテーターの研修

バイオガスエネルギーを用いたガスストーブの実演

子ども向け教育プログラムの推進

安全な飲用水への支援 V

所得創出プログラムへの支援

ニワトリの飼育

野菜栽培

魚の養殖

養蜂 getable Farming